

群馬県前橋市

高井桃ノ木Ⅱ遺跡

2003

元景寺南線遺跡調査会

群馬県前橋市

高井桃ノ木Ⅱ遺跡

2003

元景寺南線遺跡調査会

序

遺跡が所在する前橋市総社町高井周辺は、榛名山の相馬が原扇状地から前橋台地に移り変わる火山の裾野に位置します。遺跡は八幡川沿いの微高地上に広がる古代の集落からなり、総社古墳群や山王廃寺跡にも近いことから古代より群馬の中心地として栄えてきた地域です。

街道沿いに古い街並みを残すこの地域も、近年市街地の拡大に伴い、周辺の幹線道路等整備が進められ、徐々に再開発が進みつつあります。

今回発掘調査を行った都市計画道路3・4・43元景寺南線は、市内道路の交通混雑の緩和や潤いのある都市空間の創造などを目的に都市基盤の整備を行う道路改築工事が計画されました。

工事に先だって埋蔵文化財の発掘調査を実施しましたところ、古墳後期～平安時代の集落の一部と見られる堅穴住居跡などの遺構群が検出されました。

縄文時代にまで溯る人々の痕跡、古代の群馬を支えた民の暮らしを物語る住居跡、台地を開拓しムラを築いていった人々の歴史が埋蔵文化財の調査成果を通して、いま語られようとしているのです。

ここに調査の成果を発掘調査報告書としてまとめ、刊行する運びとなりました。この成果が広く活用され、郷土の歴史を解明する一助になれば幸いです。

最後に、発掘調査から整理事業に至るまで、ご指導・ご協力をいただきました地元の方々、群馬県土木部都市施設課、群馬県前橋土木事務所、群馬県教育委員会、前橋市教育委員会、山武考古学研究所、そして発掘調査・整理にあたられた多くのみなさんに厚くお礼申し上げます。

平成15年3月

元景寺南線遺跡調査会

会長 下山 博

例　　言

1. 本書は、元景寺南線建設に伴う高井桃ノ木Ⅱ遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は群馬県教育委員会文化スポーツ部文化財保護課内に事務局を置く元景寺南線遺跡調査会が実施し、調査実務は同調査会から委託を受けた山武考古学研究所が行なった。調査担当者は同研究所員大越直樹である。
3. 遺跡の所在地・調査面積・発掘調査期間は次に示す通りである。

所 在 地 群馬県前橋市総社町232-2他

調査面積 745m²

期　　間 平成13年8月9日～平成13年10月31日

4. 本書の編集は大越直樹が行ない、執筆担当は以下の通りである。

第1章 矢口裕之

第6章 古環境研究所

その他 大越直樹

5. 調査に関わる本遺跡の記録類・出土遺物はすべて前橋市教育委員会が保管している。
6. 発掘から報告書の刊行まで下記の諸機関・諸氏にご指導・ご協力を頂いた。(敬称略)
群馬県土木部都市施設課 群馬県土木部前橋土木事務所 群馬県教育委員会 前橋市教育委員会
古環境研究所 前橋文化財研究所 J·T 空撮 新成田総合社

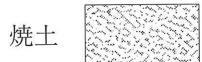
凡　　例

1. 挿図中の方針は座標北を示す。公共座標値(第IX系)は、第3図に示した。
2. 本書に用いた地形図の発行者・縮尺は下記の通りである。

第1図 前橋市役所発行『前橋市現況図24・25』2千5百分の1

第2図 国土地理院発行『渋川』『前橋』2万5千分の1

3. 挿図中に用いたスクリーントーンは以下を示す。



目 次

序	
例言	
凡例	
第1章 調査に至る経緯	1
第2章 遺跡の地理的・歴史的環境	3
第3章 調査の方法と経過	3
第4章 検出された遺構と遺物	5
第5章 まとめ	15
第6章 自然科学分析（高井桃ノ木Ⅱ遺跡の火山灰分析）	16

挿図目次

第1図 調査範囲図	1
第2図 遺跡の位置と周辺遺跡	2
第3図 調査区全体図	4
第4図 基本土層図	5
第5図 1～3号住居跡遺構図	7
第6図 3・4号住居跡遺構図	8
第7図 4・5号住居跡遺構図	9
第8図 6～8号住居跡遺構図	10
第9図 1・2号土坑遺構図	11
第10図 1号住居跡出土遺物	11
第11図 2～7号住居跡出土遺物	12
第12図 繩文遺物包含層出土遺物	13
第13図 参照図	15

表 目 次

表1 住居跡一覧表	13
表2 土坑一覧表	13
表3 遺物観察表（1）	14
表4 遺物観察表（2）	15

写真図版目次

図版1 基本土層（南から）西区全景（西から）西区縄文遺物包含層遺物分布状況（西から） 西区縄文遺物包含層遺物分布状況（東から）東区全景（東から）東区B地点全景（西から）東区 A地点全景（東から）東区縄文遺物包含層遺物分布状況（東から）	
図版2 1号住居跡全景（南から）1・6号住居跡遺物分布状況（西から）2号住居跡全景（東から）3号 住居跡全景（西から）3号住居跡遺物出土状況（西から）3号住居跡カマド近景（西から）4号住 居跡全景（西から）4号住居跡カマド近景（西から）	
図版3 5号住居跡全景（西から）5号住居跡カマド近景（西から）6号住居跡全景（南西から） 7号住居跡全景（西から）7号住居跡遺物出土状況（南から）8号住居跡全景（南西から）1号土 坑（南から）2号土坑（西から）	
図版4 1～4号住居跡出土遺物	
図版5 5～7号住居跡、縄文遺物包含層出土遺物	

第1章 調査に至る経緯

平成12年6月に群馬県前橋土木事務所から前橋市総社町高井地内における都市計画道路3・4・43元景寺南線道路改築事業について事業の照会があり、事業予定地は周知の埋蔵文化財包蔵地である高井桃ノ木遺跡の範囲内にあることから、群馬県教育委員会文化財保護課は、平成12年9月21日に試掘調査を行った。

調査の結果、事業地の一部から平安時代の集落跡と思われる遺構群が検出されたことから、発掘調査を実施する必要があると判断された。

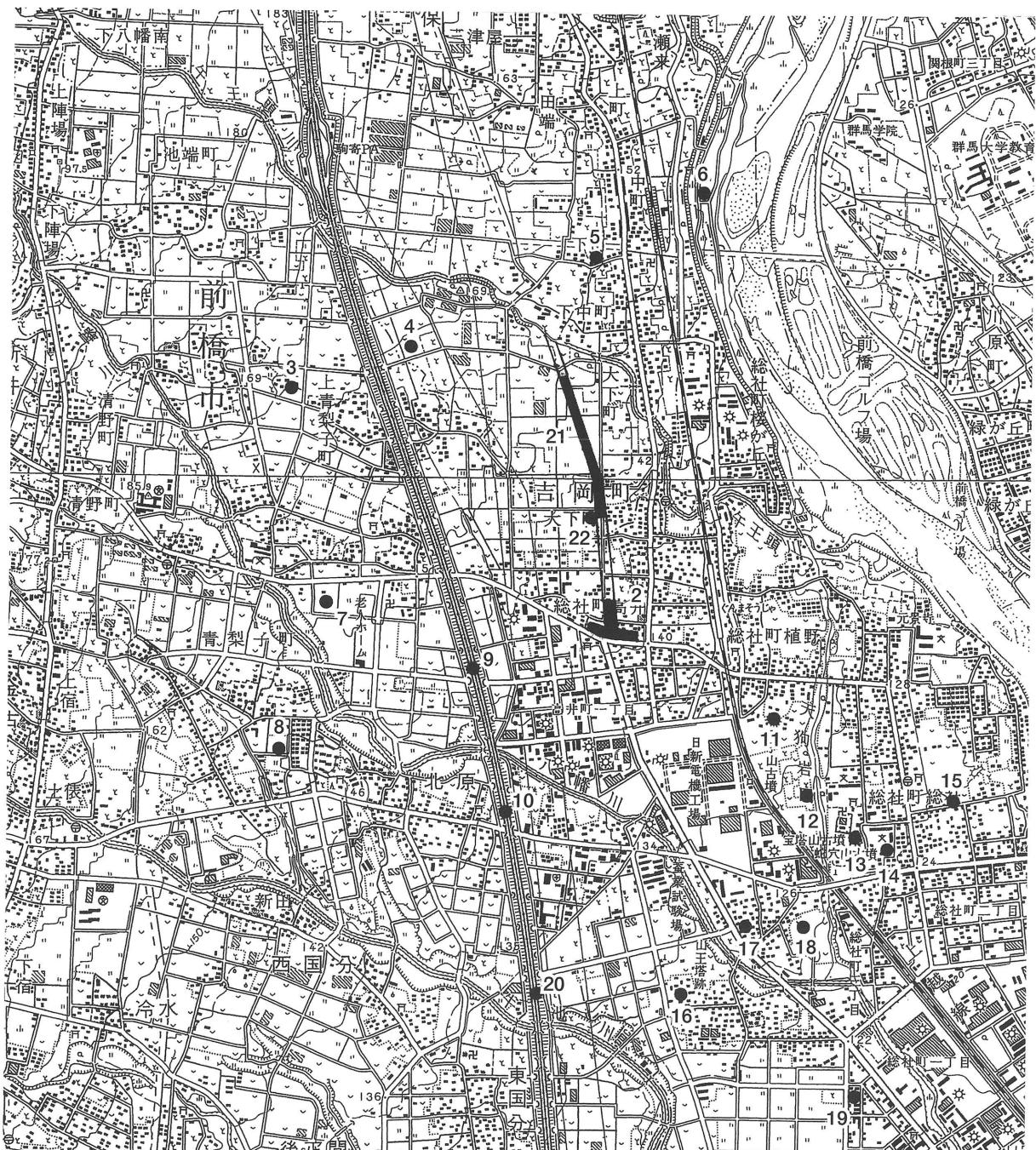
事業地では工事計画が進んでいたことから、早急に発掘調査を実施することが求められた。群馬県教育委員会は、文化財保護課内に事務局を置く遺跡調査会を設立し、県土木部都市施設課から委託をうけ、発掘調査業務を民間調査機関に再委託することで発掘調査を実施することとなった。

元景寺南線遺跡調査会 組織表

区分	職名	氏名
会長	群馬県教育委員会文化スポーツ部長 群馬県教育委員会文化スポーツ部長	川嶋達夫(平成13年度) 下山 博(平成14年度)
副会長	群馬県教育委員会文化スポーツ部文化財保護課長 群馬県教育委員会文化スポーツ部文化課長	石井英雄(平成13年度) 河部 滋(平成14年度)
理事	群馬県教育委員会文化スポーツ部文化財保護課次長 群馬県教育委員会文化スポーツ部文化課次長 群馬県土木部都市施設課次長 群馬県前橋土木事務所次長 群馬県前橋土木事務所副所長 前橋市教育委員会事務局文化財保護課長 前橋市教育委員会事務局文化財保護課長	野田明男(平成13年度) 高橋 哲(平成14年度) 飯塙 敬 中曾根道(平成13年度) 岩崎正始(平成14年度) 石川克博(平成13年度) 高橋正男(平成14年度)
監事	群馬県教育委員会文化スポーツ部文化財保護課主任 群馬県教育委員会文化スポーツ部文化課主任 前橋市教育委員会事務局文化財保護課埋蔵文化財係長	中沢 悟(平成13年度) 斎藤英敏(平成14年度) 真塩欣一
事務局長	群馬県教育委員会文化スポーツ部文化財保護課課長補佐 群馬県教育委員会文化スポーツ部文化課埋蔵文化財第1係長	巾 隆之(平成13年度) 田口正美(平成14年度)
事務局員	群馬県教育委員会文化財スポーツ部文化課主幹兼専門員 群馬県教育委員会文化スポーツ部文化課専門員	飯塙 聰 矢口裕之



第1図 調査範囲図



- | | | | |
|-------------|------------|---------------|-----------------|
| 1 高井桃ノ木II遺跡 | 7 清里・南部遺跡群 | 13 宝塔山古墳 | 19 産業道路西遺跡 |
| 2 高井桃ノ木遺跡 | 8 熊野谷遺跡 | 14 蛇穴山古墳 | 20 国分境遺跡 |
| 3 清里・庚申塚遺跡 | 9 下東西遺跡 | 15 遠見山古墳・総社城跡 | 21 長久保大畑・新田入口遺跡 |
| 4 清里・長久保遺跡 | 10 北原遺跡 | 16 山王廃寺(放光寺) | 22 見柳東遺跡 |
| 5 中島遺跡 | 11 総社二子山古墳 | 17 村東遺跡 | |
| 6 天狗岩用水 | 12 愛宕山古墳 | 18 大屋敷遺跡 | |

第2図 遺跡の位置と周辺遺跡

第2章 遺跡の地理的・歴史的環境

本遺跡(1)は相馬ヶ原扇状地の東端付近に立地し、JR群馬総社駅から西方400mで、県道南新井・前橋線「高井」交差点の東側と西側に分かれて位置している。相馬ヶ原扇状地は、榛名山南東麓に形成され、東端を利根川とし、南端は海拔110m付近である高崎市浜川町付近である。同扇状地の南東方向には前橋台地が展開している。同扇状地上には中小河川を走流しており、本遺跡の北方には午王頭川が、南方には八幡川が南東に流れている。遺跡の標高は海拔約140mである。

平成10年に行なった高井桃ノ木遺跡調査同様、今回の調査においても、縄文前期、古墳後期～平安時代、近世の遺構・遺物が検出されている。以上、時代別に周辺遺跡を概観する。

縄文時代では、熊野谷遺跡(8)、清里・長久保遺跡(4)、長久保大畠・新田入口遺跡(21)があり、清里・長久保遺跡からは中期～後期の集落跡が、長久保大畠・新田入口遺跡からは中期後半の配石遺構が検出されている。熊野谷遺跡からは押型文土器や沈線文などの早期土器片も検出されている。

弥生時代では、清里・庚申塚遺跡(3)から後期の環濠集落跡が検出されている。

古墳時代では、5世紀末に遠見山古墳(15)、6世紀に総社二子山古墳(11)が築造されており、終末期になると、愛宕山古墳(12)、宝塔山古墳(13)、蛇穴山古墳(14)が築かれる一方で、山王廃寺(放光寺)(16)が建立されている。この他、下東西遺跡(9)、大屋敷遺跡(18)、国分境遺跡(20)、長久保大畠・新田入口遺跡からは集落跡が、長久保大畠・新田入口遺跡と北原遺跡(10)からは水田跡が検出されている。

奈良・平安時代では、総社町付近は国府域となっている。下東西遺跡、国分境遺跡、北原遺跡、長久保大畠・新田入口遺跡からは集落跡が検出されている。

中・近世では、長久保大畠・新田入口遺跡の屋敷跡と天狗岩用水(6)がある。

第3章 調査の方法と経過

1. 調査方法

調査区は、都計道大友町西通線（産業道路）を挟んだ西側を西区、東側を東区とすることにした。東区においては、民家出入り口を除いた部分であるA～Eの5地点のみを調査することにした。前回調査において、古墳～平安時代集落跡の遺構確認面下位の黒色土層から、縄文時代前期包含層が確認されているため、今回においても同包含層の続きがあることが想定されたため、安全を考慮しつつ可能な限りの範囲で2面調査を行なうこととした。

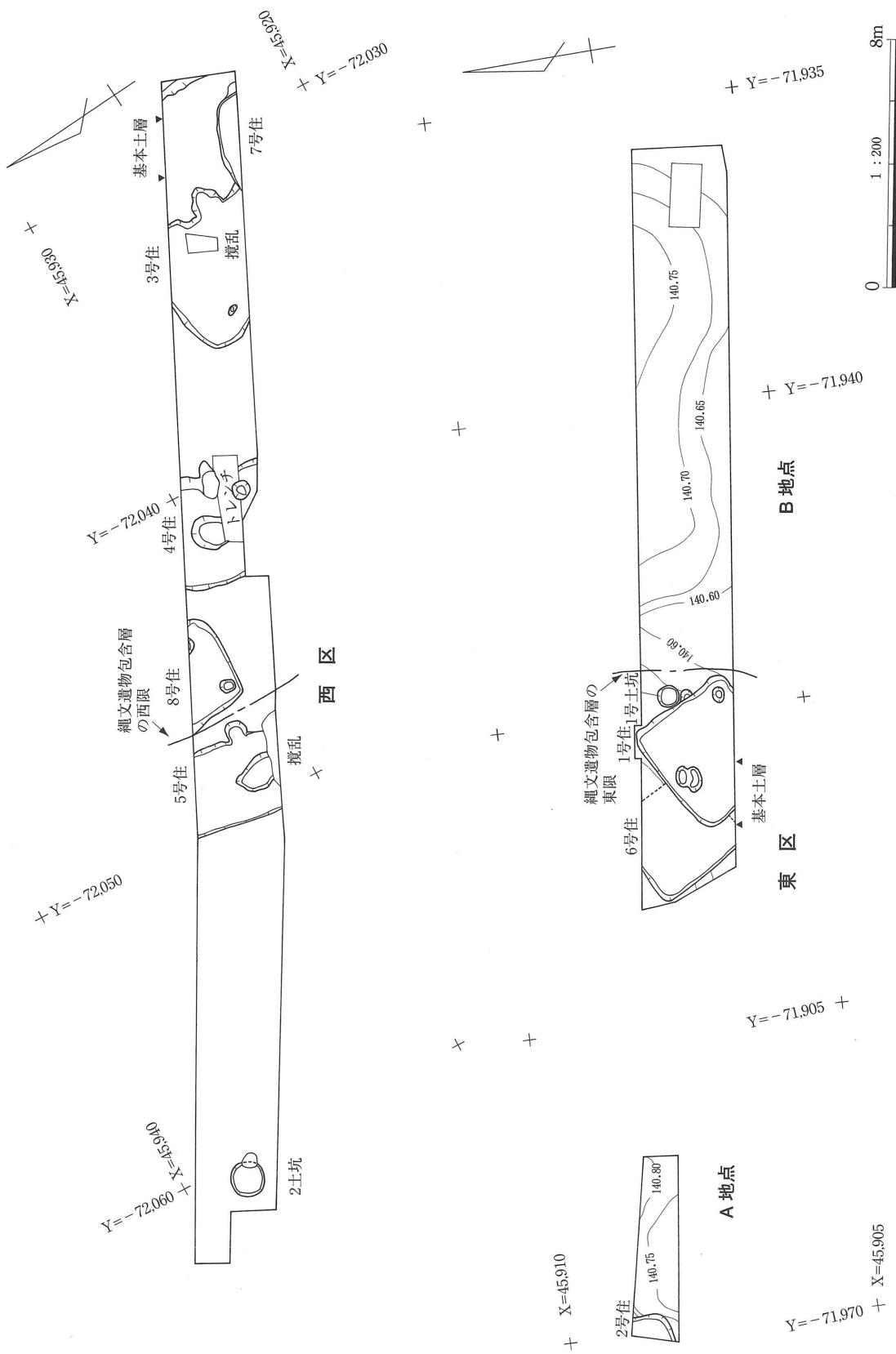
遺構実測の基準は、国家公共座標第IX系を使用し、座標値は第3図図中に示した。実測図は1/10、1/20、1/100で作製した。写真撮影は、35mm白黒、35mmカラースライド、6×7判白黒カメラを使用した。

2. 調査経過

(平成13年8月9日～10月31日)

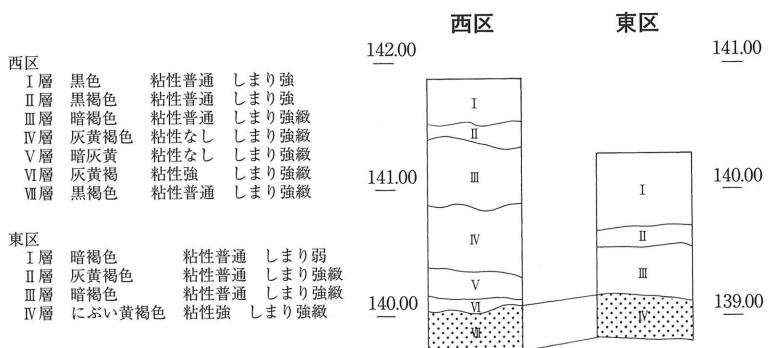
- | | |
|---------|---|
| 8月 上旬 | コンテナハウス・トイレ・物置を設置し器材を搬入する。 |
| 中・下旬 | 東区を重機で表土掘削を開始し、順次人力で精査を行なう。 |
| 9月 上・中旬 | 東区全体図作製、テフラ分析のため土壤の採取を行なう。重機で間層を除去し、人力で縄文包含層調査を行なう。同区の埋め戻しを行い調査を終了する。 |
| 下旬 | 西区にプレハブを移動し、同区の表土を重機で掘削しつつ、順次人力で精査を行なう。 |
| 10月 上旬 | 西区の遺構調査を行なう。西区全体図を作製する。 |
| 中・下旬 | 西区縄文遺物包含層調査を行なう。埋め戻し・事務処理をし、調査を終了する。 |

第3図 調査区全体図



3. 基本土層

第4図は、縄文時代の遺物が検出された西区西側（B地点）と東区西端で観察・記録を行なったものである。遺物包含層は、粘性をおびた黒褐色土層で西区のⅦ層と東区のIV層が該当する。



第4図 基本土層図

第4章 検出された遺構と遺物

縄文～平安時代の遺構と遺物が検出されている。縄文時代では遺物包含層が検出され十三菩提式などの前期土器破片、古墳時代後期では竪穴住居跡3軒、奈良・平安時代では竪穴住居跡5軒、近世では土坑1基が検出されている。詳細は下記に示す通りである。

(1) 遺構

1号住居跡（遺構：第5図、図版2、表1／遺物：第10図、図版4、表3）

位置：東区B地点。**形状：**長方形プランと推定される。**床面：**薄い貼床がみられる。**壁周溝：**確認されなかった。**竈：**東壁中央部に位置するが遺存状態は不良である。**貯蔵穴：**住居南東隅に位置し、規模0.45m×0.33m、深さ0.27mの平面橢円形である。**掘方：**浅い掘り込みがある。**埋没土の特徴：**粘性の弱い黒褐色～暗褐色土である。**遺物出土状態：**床面中央部～南辺にかけての床～覆土下層に分布する。**備考：**遺構形状と遺物から古墳時代後期に構築と判断される。

2号住居跡（遺構：第5図、図版2、表1／遺物：第10図、図版4、表3）

位置：東区西端。**形状：**南東隅のみを調査している。**床面：**貼床が施されている。**壁周溝：**壁際を巡っている。**竈・貯蔵穴：**不明。**掘方：**深い掘り込みがある。**埋没土の特徴：**黒色土・黒褐色土を基調とし白色軽石が微量に混入する。**遺物出土状態：**覆土中から土師器甌が出土している。**備考：**遺構形状と遺物から、古墳時代後期の構築と判断される。

3号住居跡（遺構：第5・6図、図版2、表1／遺物：第11図、図版4、表3）

位置：西区東側。**形状：**隅丸方形と推定される。**床面：**地山を床面としている。**壁周溝：**なし。**竈：**東壁に位置し、焚口部に川原石の両袖石・天井石・支脚が遺存しており、支脚は立位で検出されている。袖部は地山を直接削りだしたものである。**掘方：**地山を床面としている。**埋没土の特徴：**黒褐色土・暗褐色土を基調とし白色粒が混入する。**遺物出土状態：**竈内・覆土中にみられる。**備考：**遺構形状と遺物から、平安時代の構築と判断される。

4号住居跡（遺構：第6・7図、図版2、表1／遺物：第11図、図版4、表3）

位置：西区中央部。**形状：**方形もしくは長方形と推定される。**床面：**地山を床面としている。**壁周溝：**なし。

竈：東壁に位置する。**掘方**：中央部に径1.00mの平面橢円形の床下土坑がある。**埋没土の特徴**：黒色土で白色軽石粒が混入する。**遺物出土状態**：竈の煙道部分～燃焼部壁際に羽釜破片が立位で並べられた状態で検出されている。**備考**：遺構の形状と遺物から平安時代に構築されたと判断される。

5号住居跡（遺構：第7図、図版3、表1／遺物：第11図、図版5、表3）

位置：西区中央部。**形状**：長方形と推定される。**床面**：地山を床面としている。**壁周溝**：なし。**竈**：東壁に位置し支脚が立位で検出されている。**掘方**：中央部に短軸の径0.80mの掘り込みがある。**埋没土の特徴**：黒色土を基調とし、白色軽石粒が混入する。**遺物出土状態**：竈内および床面南半の床～覆土下層に分布する。**備考**：遺構の形状および遺物の形態から平安時代の構築と推定される。

6号住居跡（遺構：第8図、図版3、表1／遺物：第11図、図版5、表3）

位置：東区B地点。**形状**：方形プランと推定される。**床面**：地山を床面としている。**壁周溝・竈・掘方**：なし。**埋没土の特徴**：黒褐色土を基調とし白色軽石粒が混入している。**遺物出土状態**：床面中央部～西壁際にかけての床面～覆土下層で、土師器甕・壺が出土している。**備考**：1号住に切られ、古墳時代後期の中でも新旧が判明した。

7号住居跡（遺構：第8図、図版3、表1／遺物：第11図、図版5、表3）

位置：西区中央部。**形状**：プランは不明であるが、北壁はほぼ垂直に立ち上がる。**床面**：地山床面としている。**壁周溝・竈・掘方**：なし。**埋没土の特徴**：黒褐色土で白色軽石粒が混入する。**遺物出土状態**：北壁際から須恵器壺・灰釉皿が出土している。**備考**：遺物から平安時代の構築と判断される。

8号住居跡（遺構：第8図、図版3、表1／遺物：第11図、図版5、表3）

位置：西区中央部。**形状**：方形または長方形プランと推定される。**床面**：地山を床面としている。**埋没土の特徴**：黒褐色土を基調とし白色軽石粒を混入する。**遺物出土状態**：壁際の床面に分布する。**壁周溝・竈**：なし。**掘方**：南西隅に規模0.50m×0.37m、深さ0.16mの平面橢円形の床下土坑が検出されている。南東隅付近にも深さ0.30mの掘り込みがあるが形状・規模は不明である。**備考**：遺構形態と遺物から平安時代の構築と推定される。

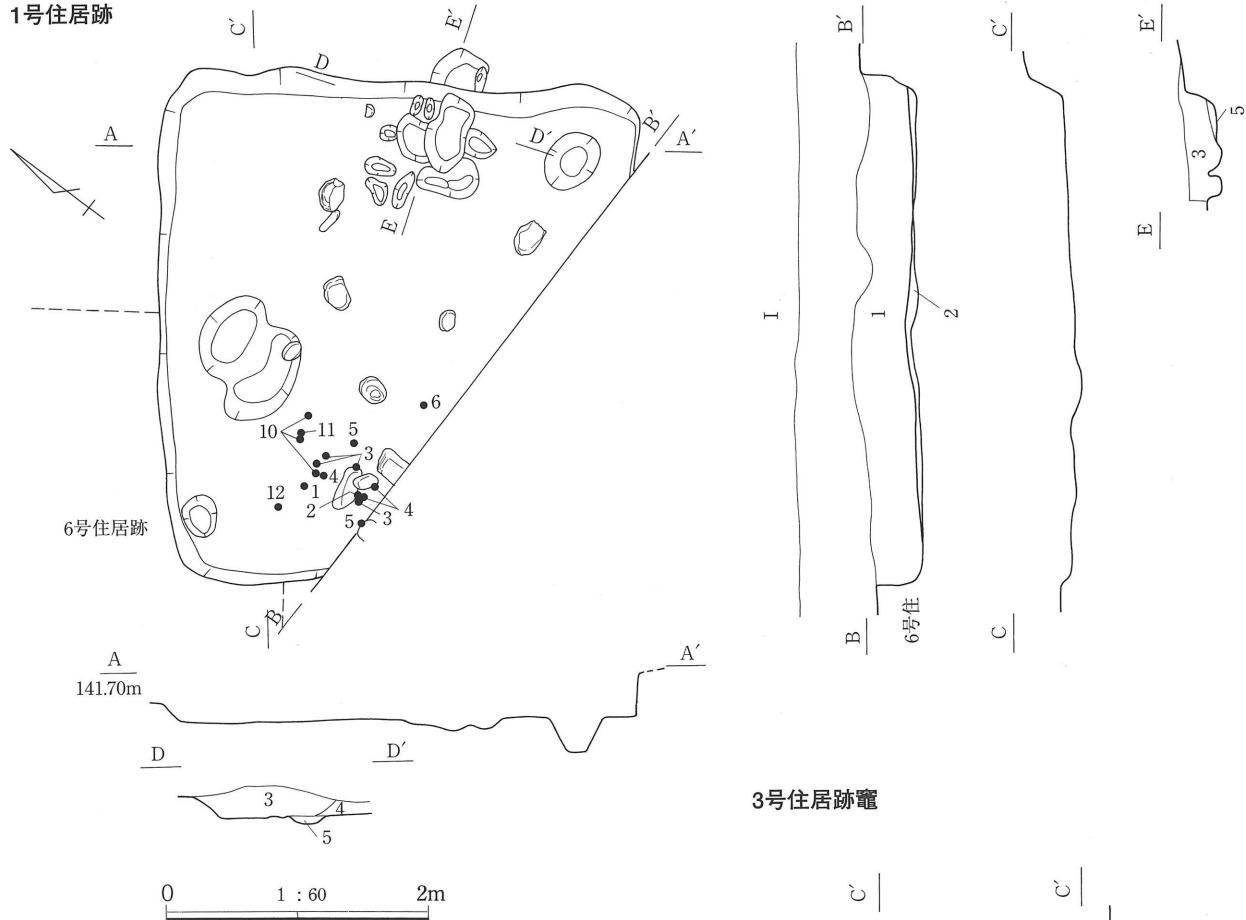
土坑（遺構：第9図、図版3、表2）

土坑は、本遺跡において、浅い掘り込みの円形土坑2基が検出されている。1号土坑は東区B地点から検出され、近世陶磁器破片が出土している。2号土坑は西区西端から検出され、遺物はなかった。いずれも覆土は表土に類似している。

(2) 繩文遺物包含層出土遺物（状況：第3図、図版1・5、表3・4）

縄文時代前期の遺物包含層は、黒色～黒褐色土層で、西区東寄り～東区西端のほぼ160mの範囲に広がっており、地表からの深さは、西区東側で2.20m、東区で0.70m掘り下げた位置にある。同層からは、諸磯a式、諸磯b式、諸磯c式、十三菩提式などの土器35点と、凹石、剥片各1点の計37点が出土している。西区では東側の約11m²の範囲で30点、東区ではB地点西側の約7m²の範囲で7点が出土した。

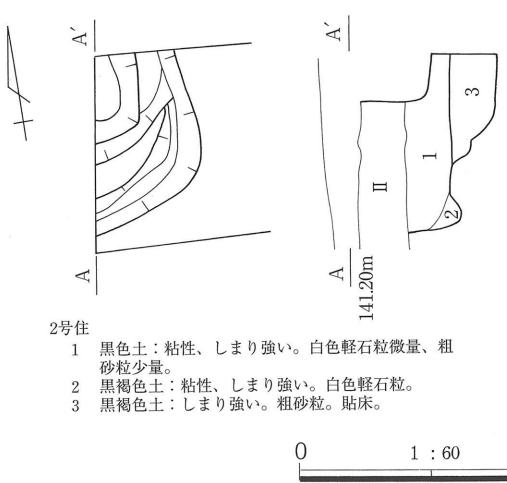
1号住居跡



1号住

- 1 黒褐色土：粘性弱く、しまり強い。5mm前後の小礫、白色粒少量、焼土粒微量。
- 2 暗褐色土：粘性弱く、しまり強い。5mm前後の小礫微量、褐色土ブロック少量。貼床。
- 3 黒褐色土：焼土ブロック少量、焼土粒・炭化物粒少量。
- 4 暗褐色土：焼土粒・炭化物粒微量、白色粒微量、小礫少量。
- 5 黒褐色土：粘性弱い。小礫、炭化物粒多量、焼土粒微量。

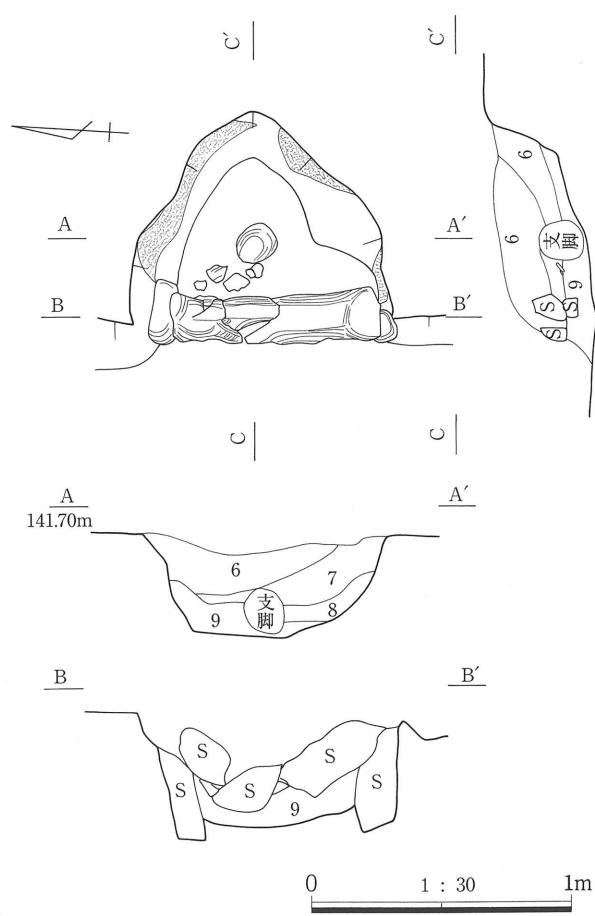
2号住居跡



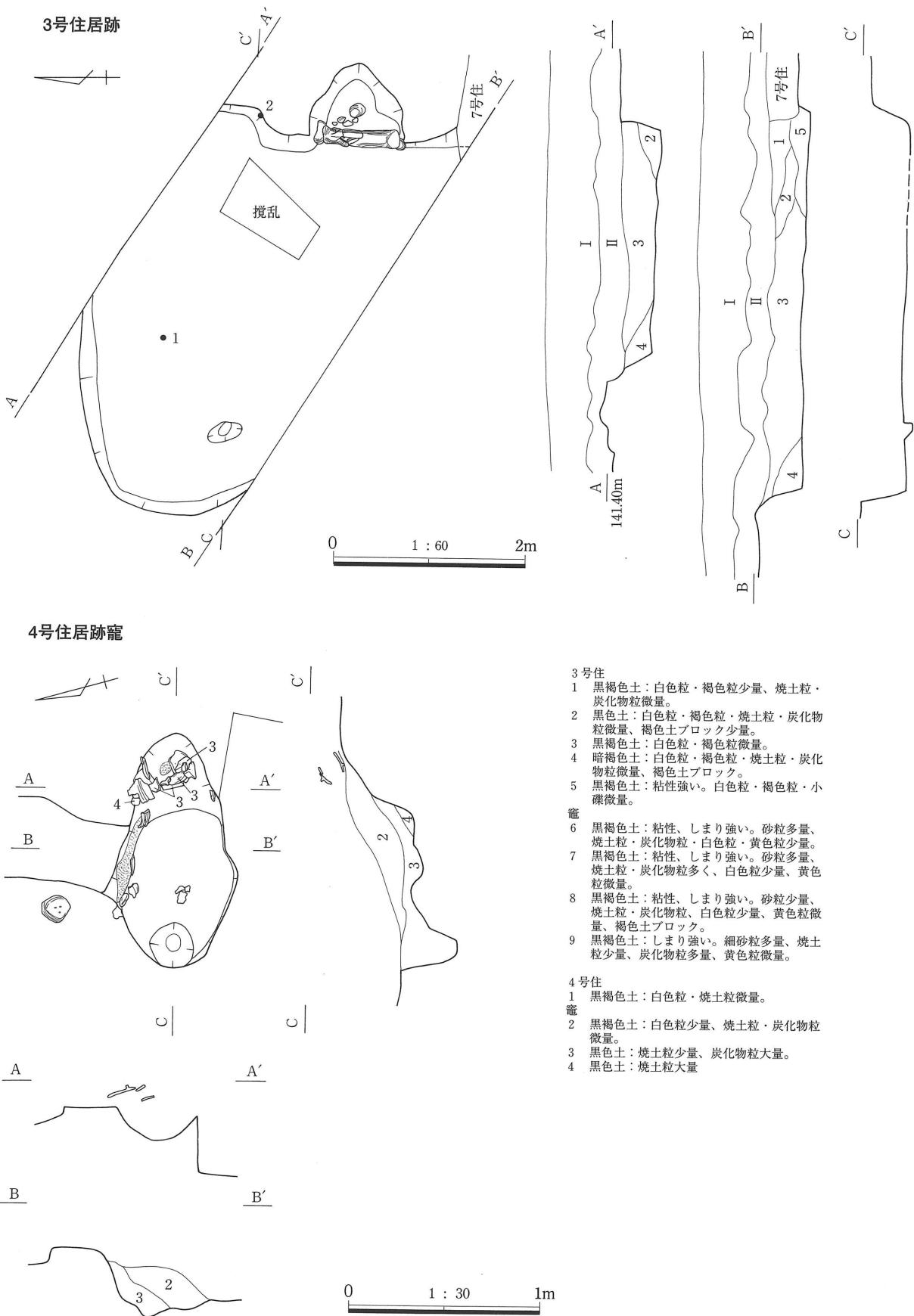
2号住

- 1 黒色土：粘性、しまり強い。白色軽石粒微量、粗砂粒少量。
- 2 黒褐色土：粘性、しまり強い。白色軽石粒。
- 3 黒褐色土：しまり強い。粗砂粒。貼床。

3号住居跡竈

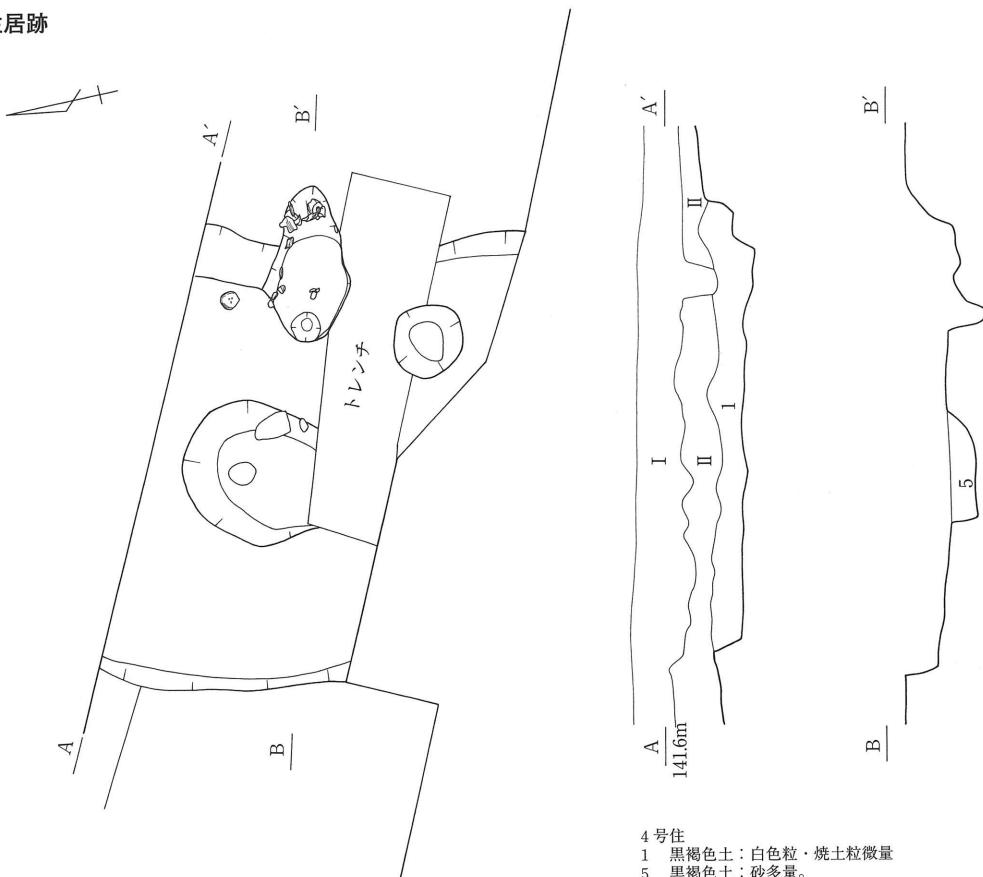


第5図 1~3号住居跡遺構図

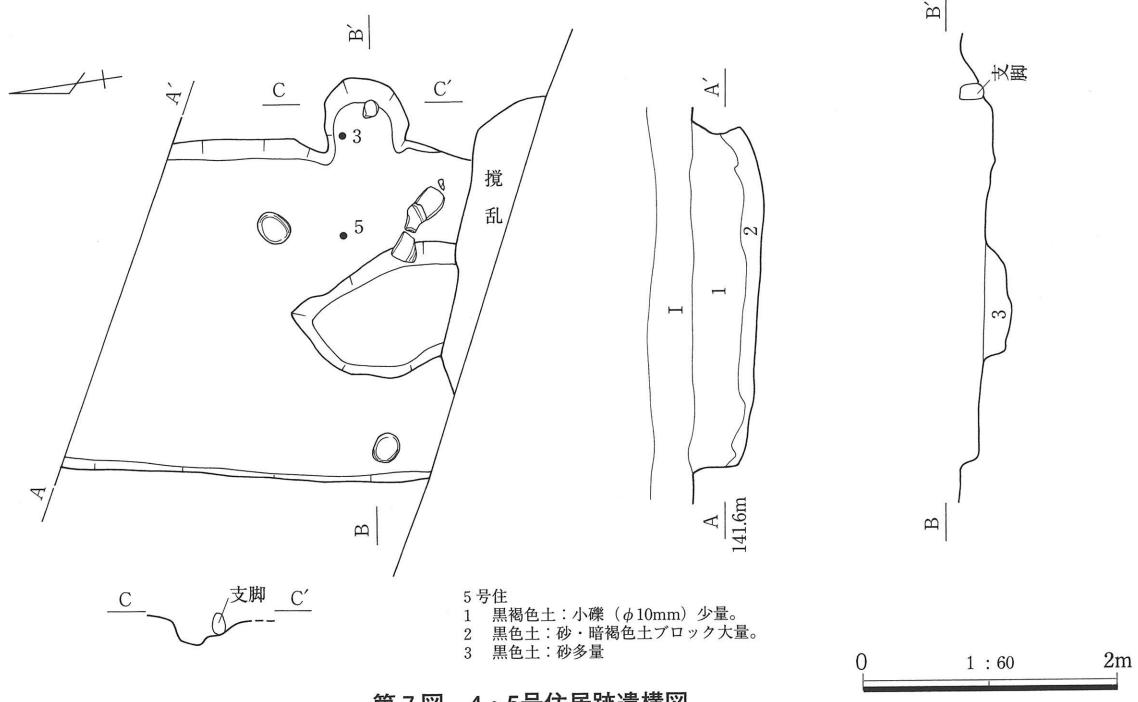


第6図 3・4号住居跡遺構図

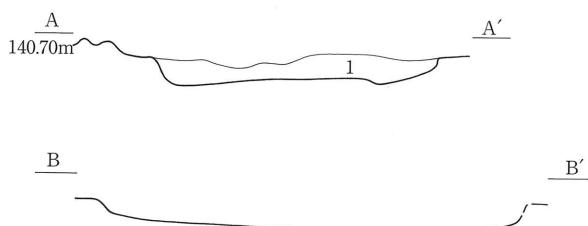
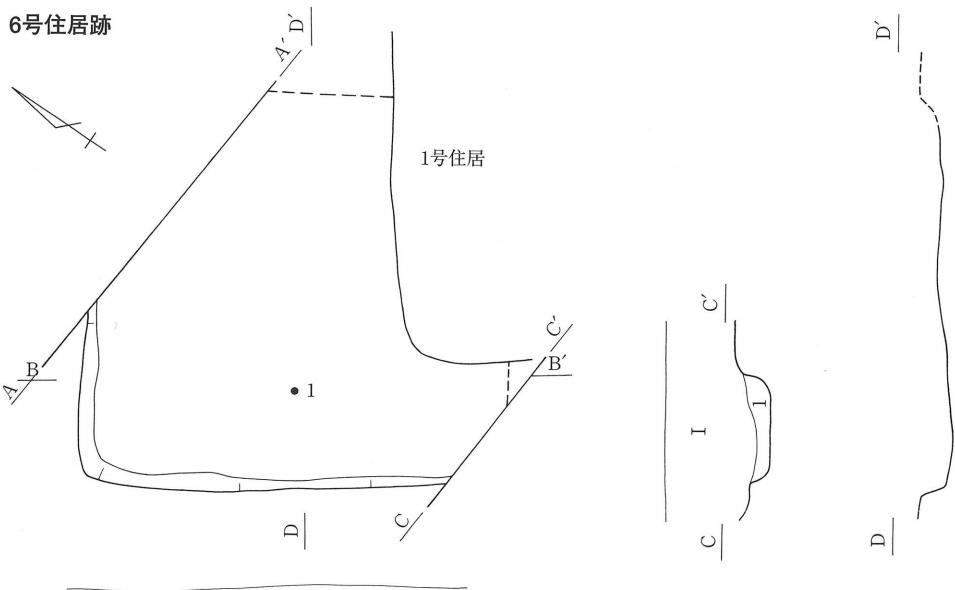
4号住居跡



5号住居跡



第7図 4・5号住居跡遺構図



6号住

1 黒褐色土：小礫（ ϕ 5 mm）白色軽石粒少量。

7号住

1 黒褐色土：白色粒・褐色粒・焼土粒微量。

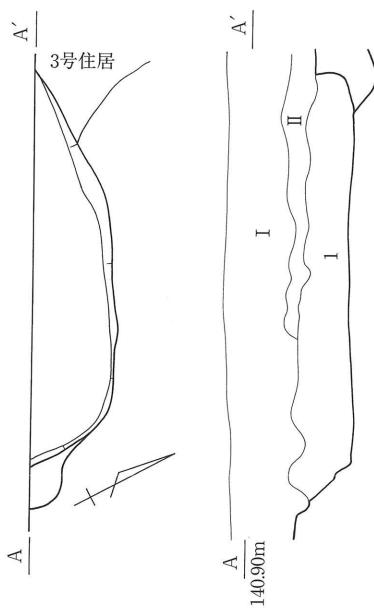
8号住

1 黒褐色土：細砂大量。

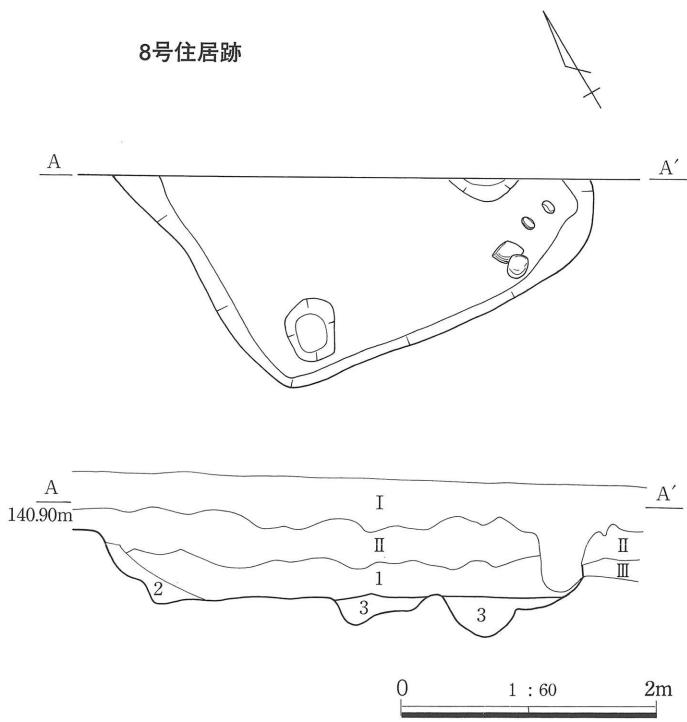
2 黒色土：砂礫多量。

3 暗褐色土：砂礫多量。

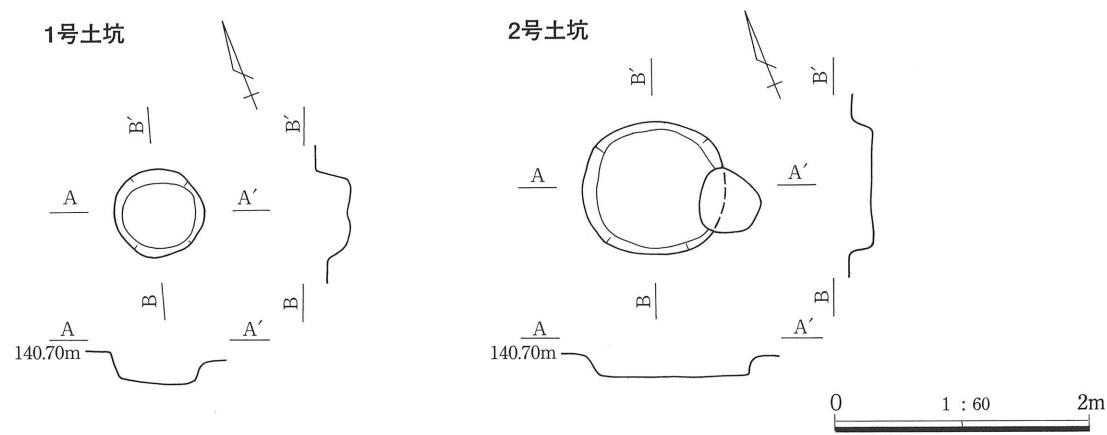
7号住居跡



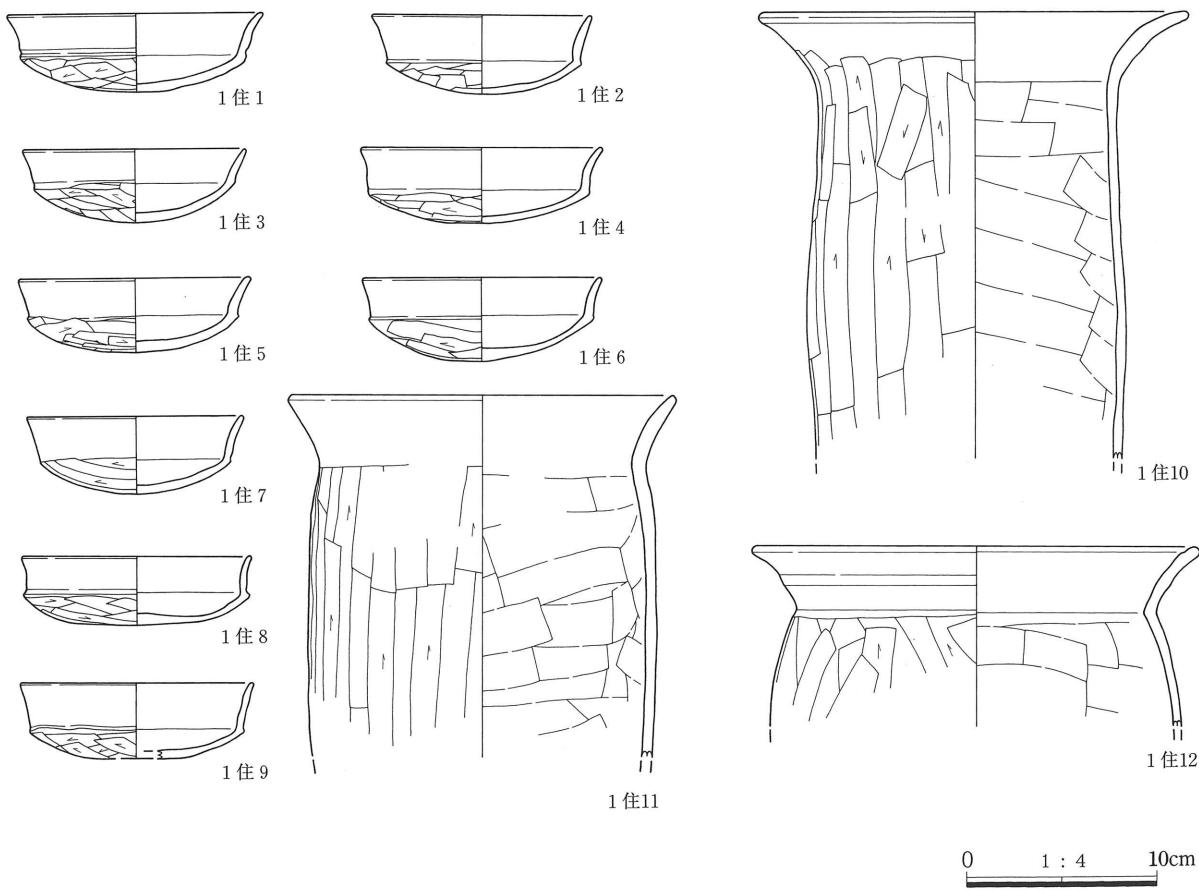
8号住跡



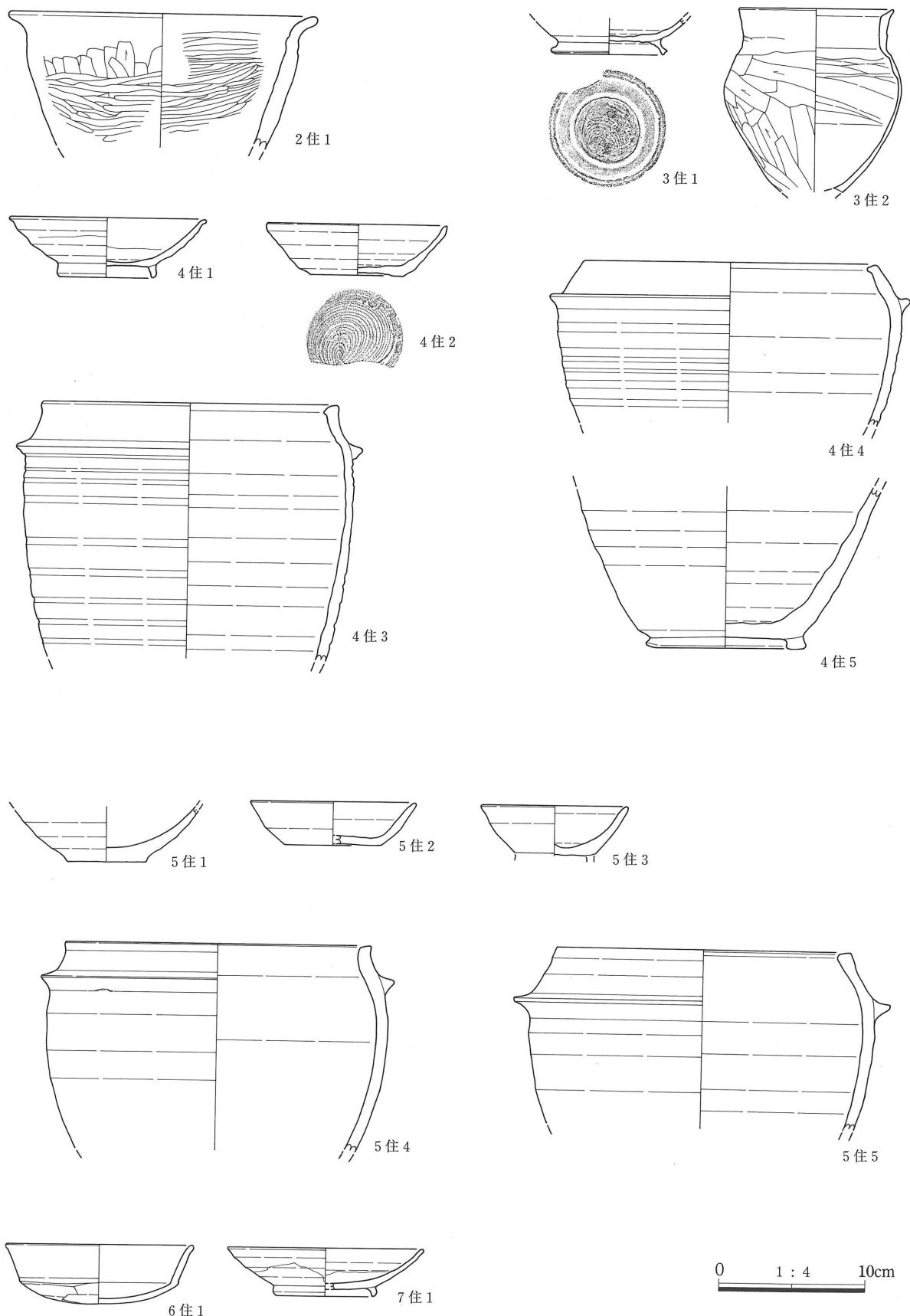
第8図 6~8号住居跡遺構図



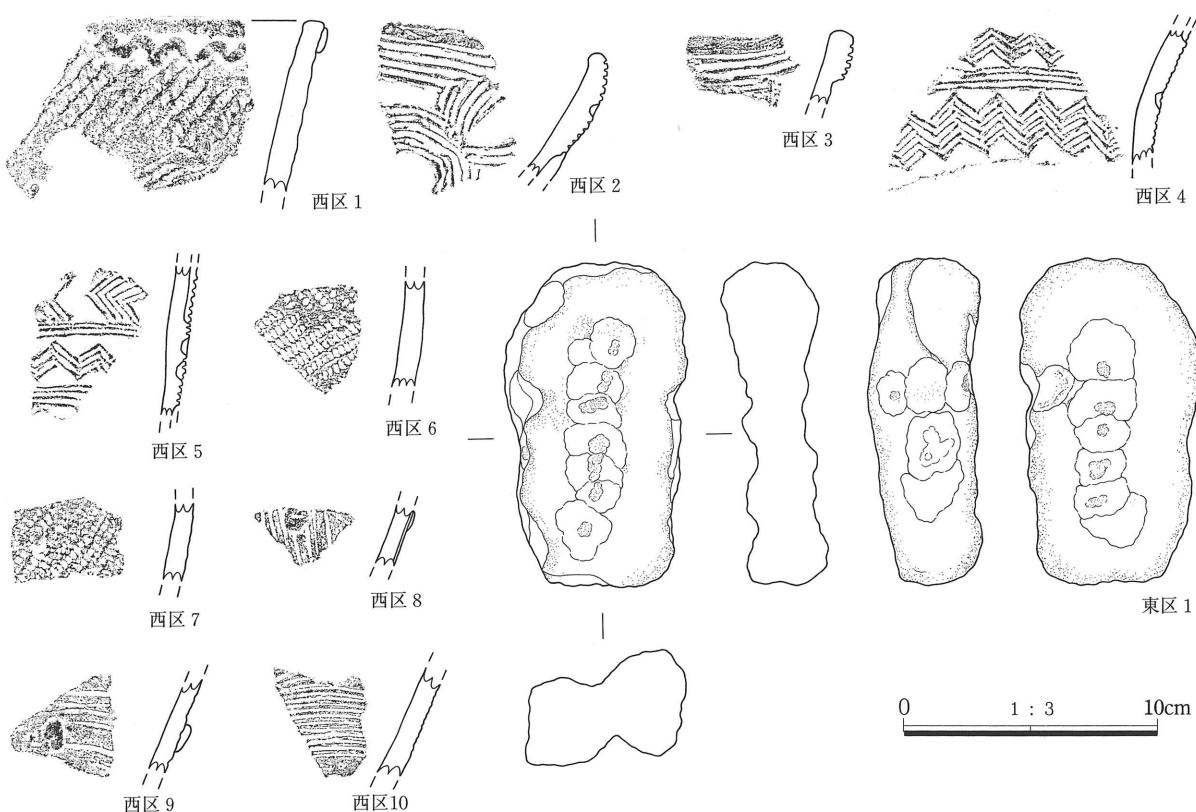
第9図 1・2号土坑遺構図



第10図 1号住居跡出土遺物



第11図 2~7号住居跡出土遺物



第12図 繩文遺物包含層出土遺物

表1 住居跡一覧表

遺構番号	位置	主軸方位	規模 (m)			貯蔵穴	壁周溝	カマド	主な出土遺物	時期	新旧関係	
			長軸	短軸	壁高						(旧<新)	
1住	東区B地点 西端	X=45,904 Y=-71,951	N-49°-E	3.95	3.65	0.45	南東	—	東	土師器壊・甕、須恵器破片	古墳	6住<1住
2住	東区A地点 西端	X=45,907 Y=-71,970	—	—	—	—	有	—	土師器甕	古墳	—	—
3住	西区東側	X=45,925 Y=-72,031	N-86°-E	4.15	—	0.36	—	—	東	土師器台付甕・須恵器椀	奈良・平安	3住<7住
4住	西区中央部	X=45,930 Y=-72,040	N-78°-E	3.50	—	0.22	カマド右に 深さ13cm の掘り込み	—	東	須恵器羽釜・長頸壺・壊・灰釉椀	奈良・平安	—
5住	西区中央部	X=45,932 Y=-72,050	N-81°-E	—	2.68	0.55	—	—	東	須恵器羽釜・壊・椀	奈良・平安	—
6住	東区B地点 西端	X=45,904 Y=-71,954	—	3.55	3.15	0.2	—	—	—	土師器壊	古墳	6住<1住
7住	西区東端	X=45,922 Y=-72,030	—	—	—	0.43	—	—	—	須恵器壺・灰釉皿	奈良・平安	3住<7住
8住	西区中央部	X=45,931 Y=-72,045	—	—	3.08	0.38	—	—	—	須恵器羽釜	奈良・平安	—

表2 土坑一覧表

遺構番号	位置	平面形	規模 (m)			主な出土遺物	時期	新旧関係	
			長軸	短軸	深さ			(旧<新)	
1土	東区B地点	X=45,904 Y=-71,949	円形	0.70	0.60	0.25	近世陶磁器	近世	—
2土	西区西端	X=45,937 Y=-72,060	円形	1.12	1.05	0.20	—	時期不明	—

表3 遺物観察表(1)

遺物番号	器種	口径・底径・器高(cm)残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調②焼成③胎土④備考
1住1	土師器 坏	13.2・・4.1 完形	口縁部は外反。口縁部下の段は丸みを持つ。浅い底部。外面、口縁部横撫で、体部範削り。内面、口縁部横撫で、体部撫で。	①橙色 ②普通 ③褐色粒・雲母
1住2	土師器 坏	11.4・・4.2 ほぼ完形	口縁部は外反。口縁部下の段は緩やか。浅い底部。外面、口縁部横撫で、体部範削り。内面、口縁部横撫で、体部撫で。	①橙色 ②普通 ③白色粒・褐色粒
1住3	土師器 坏	11.6・・3.9 3/4	口縁部は外反。口縁部下の段は緩やか。浅い底部。外面、口縁部横撫で、体部範削り。内面、口縁部横撫で、体部撫で。	①橙色 ②普通 ③白色粒
1住4	土師器 坏	12.5・・4.0 7/8	口縁部は外反。口縁部下の段は緩やか。浅い底部。外面、口縁部横撫で、体部範削り。内面、口縁部横撫で、体部撫で。	①橙色 ②普通 ③白色粒・黒色粒
1住5	土師器 坏	11.9・・3.9 7/8	口縁部は外反。口縁部下の段は明瞭。浅い底部。外面、口縁部横撫で、体部範削り。内面、口縁部横撫で、体部撫で。	①橙～鈍い黄橙色 ②普通 ③褐色粒・雲母
1住6	土師器 坏	12.4・・4.4 1/2	口縁部は外反。口縁部下の段は丸みを持つ。浅い底部。外面、口縁部横撫で、体部範削り。内面、口縁部横撫で、体部撫で。	①橙色 ②普通 ③白色粒・角閃石
1住7	土師器 坏	11.2・・4.1 3/4	口縁部は外反。口縁部下の段は緩やか。浅い底部。外面、口縁部横撫で、体部範削り。内面、口縁部横撫で、体部撫で。	①橙色 ②普通 ③褐色粒・雲母
1住8	土師器 坏	(11.8)・・3.6 1/3	口縁部は直立気味に外反。口縁部下の段は明瞭。浅い底部。口縁部内外面横撫で、体部範削り。内面、体部撫で。	①橙色 ②普通 ③褐色粒・雲母
1住9	土師器 坏	(12.1)・・4.0 1/3	口縁部は直立気味に外反。口縁部下の段は緩やか。浅い底部。口縁部内外面横撫で、体部範削り。内面、体部撫で。	①橙色 ②普通 ③褐色粒・雲母
1住10	土師器 甕	(22.2)・・・ 口縁～胴部中位3/5	口縁部は大きく外反。胴部の膨らみはない。口縁部内外面横撫で、胴部範削り。内面、胴部撫で。	①鈍い黄～鈍い黄褐色 ②普通 ③白色粒・石英
1住11	土師器 甕	(20.0)・・・ 口縁～胴部中位1/2	口縁部は大きく外反。胴部の膨らみはない。口縁部内外面横撫で、胴部範削り。内面、胴部撫で。	①橙～鈍い褐色 ②普通 ③白色粒・石英
1住12	土師器 甕	(23.0)・・・ 口縁～胴部上位1/4	口縁部は外反。胴部の膨らみは少ない。口縁部内外面横撫で、胴部範削り。内面、胴部撫で。	①鈍い褐色 ②普通 ③白色粒・黒色粒・礫
2住1	土師器 甕	21.0・・・	口縁部は小さく外反。胴部は直線的。口縁部内外面横撫で、胴口縁～胴部中位破片部範削り後範研磨。内面、胴部撫研磨。	①灰黄～暗灰黄色 ②普通 ③白色粒・黒色粒・石英
3住1	須恵器 椀	・7.3・ 体部下位～高台部	体部は緩やかに外反。高台部はハの字状。内外面輻轆整形、底部右回転糸切り。	①灰色 ②還元 ③白色粒・褐色粒・片岩
3住2	土師器 台付甕	10.5・・・ 口縁～胴部下位	口縁部は直立気味。胴部上位に膨らみ。口縁部内外面横撫で、胴部範削り。内面、胴部撫で。	①褐～灰黄色 ②普通 ③白色粒
4住1	灰釉陶器 椀	(13.4)・6.3・4.1 2/3	体部は緩やかに外反。高台部は丸みを持つ。内外面輻轆整形、底部右回転糸切り。	①灰色 ②還元 ③白色粒・黒色粒 ④内外面漬掛け施釉
4住2	須恵器 坏	(12.4)・6.4・3.5 1/2	体部は直線的に外反。平底。内外面輻轆整形、底部右回転糸切り。	①灰色 ②還元 ③白色粒・黒色粒
4住3	須恵器 羽釜	(20.3)・・・ 口縁～胴部下位1/3	口縁部、口唇部は内傾。胴部の膨らみは少ない。鍔は断面台形で、上端がほぼ水平。胴部内外面輻轆整形。	①鈍い黄色 ②酸化 ③白色粒・黒色粒・褐色粒
4住4	須恵器 羽釜	(20.0)・・・ 口縁～胴部中位破片	口縁部、口唇部は内傾。胴部内外面輻轆整形。	①灰白～黃灰色 ②酸化 ③白色粒・黒色粒
4住5	須恵器 長頸壺	・10.8・ 胴中位～高台部3/4	胴部は直線的に外反。平底。内外面輻轆整形、底部回転糸切り。	①灰色 ②還元 ③白色粒・黒色粒
5住1	須恵器 坏	・5.5・ 体部～底部1/3	体部は緩やかに外反。平底。内外面輻轆整形、底部右回転糸切り。	①明黄褐色 ②酸化 ③褐色粒・角閃石
5住2	須恵器 坏	(11.4)・(6.7)・3.0 1/4	体部は直線的に外反。平底。内外面輻轆整形、底部回転糸切り。	①灰色 ②還元 ③白色粒・角閃石・石英
5住3	須恵器 椀	10.0・・・ 口唇～底部3/4	体部は緩やかに外反。平底。内外面輻轆整形、底部回転糸切り。	①灰色 ②還元 ③角閃石・石英
5住4	須恵器 羽釜	(20.9)・・・ 口縁～胴部中位1/4	口縁部は内湾。胴部は緩やかに膨らむ。鍔は断面三角形。内外面輻轆整形。	①鈍い黄褐色 ②酸化 ③角閃石・石英
5住5	須恵器 羽釜	(20.1)・・・ 口縁～胴部中位1/4	口縁部は内傾。胴部の膨らみは少ない。鍔は断面三角形。内外面輻轆整形。	①灰黄色 ②還元 ③礫・石英
6住1	土師器 坏	(12.8)・・4.1 1/3	口縁部は外反。口縁部下の段は緩やか。浅い底部。外面、口縁部横撫で、体部範削り。内面、口縁部横撫で、体部撫で。	①橙色 ②普通 ③褐色粒・石英
7住1	灰釉陶器 皿	13.4・(6.6)・3.3 1/2	体部は緩やかに外反。高台部は尖り気味。内外面輻轆整形、底部回転糸切り。	①黄灰色 ②還元 ③白色粒 ④内外面刷毛塗り施釉
西区1	繩文土器 深鉢	・・・・・ 口縁部片	平縁の深鉢。太めの原体による繩文(L)施文。口縁部直下に粘土紐を蛇行させて貼付。	①普通 ②灰褐色 ③白色粒・褐色粒・石英・片岩
西区2	繩文土器 深鉢	・・・・・ 口縁部片	わずかに内湾する波状口縁の深鉢。6条～4条の沈線と三角形、楕円形の印刻文の組み合わせ文。	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・黑色粒・砂粒多し
西区3	繩文土器 深鉢	・・・・・ 口縁部片	2と同一個体。	①普通 ②褐灰色 ③白色粒・黑色粒・砂粒多し
西区4	繩文土器 深鉢	・・・・・ 胴部片	2と同一個体の胴部。筒状に立ち上がる。4条～5条の横位沈線を巡らして文様帯を区切り、沈線を鋸歯状に施す。横線との間に三角印刻文を施して立体的な文様構成とする。	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白色粒・黑色粒・片岩
西区5	繩文土器 深鉢	・・・・・ 胴部片	2と同一個体の胴部。筒状に立ち上がる。4条～5条の横位沈線を巡らして文様帯を区切り、沈線を鋸歯状およびくの字状に施す。横線との間に三角形や、くの字状の印刻文を施して立体的な文様構成とする。	①普通 ②橙色～にぶい赤褐色 ③白色粒・黑色粒・片岩

表4 遺物観察表(2)

遺物番号	器種	口径・底径・器高(cm)残存	器形・成形・整形などの特徴	①色調 ②焼成 ③胎土 ④備考
西区6	縄文土器 深鉢	—・—・—	羽状縄文(RL)(LR)施文。	①普通 ②橙色 ③白色粒・黒色粒・石英
西区7	縄文土器 深鉢	—・—・— 胴部片	筒状の胴部。縄文(LR)施文。	①普通 ②にぶい黄橙色 ③白色粒・黒色粒
西区8	縄文土器 深鉢	—・—・— 胴部片	胴上位で外傾する深鉢。縦位、斜位の平行沈線に円形の小突起を貼付する。	①普通 ②にぶい黄橙色 ③白色粒・黒色粒
西区9	縄文土器 深鉢	—・—・— 胴部片	胴上位で外傾する深鉢。横位の平行沈線に楕円形の小突起を貼付する。	①普通 ②にぶい褐色 ③白色粒・石英・砂粒多し
西区10	縄文土器 深鉢	—・—・— 胴部片	胴上位で外傾する深鉢。横位の平行沈線文施文。	①普通 ②にぶい赤褐色 ③白色粒・黒色粒・砂粒多し
東区1	石器 凹石	長さ12.9・幅7.1 厚さ4.2・重量 380g	表裏および片側面に加工痕跡あり。	①石材は安山岩

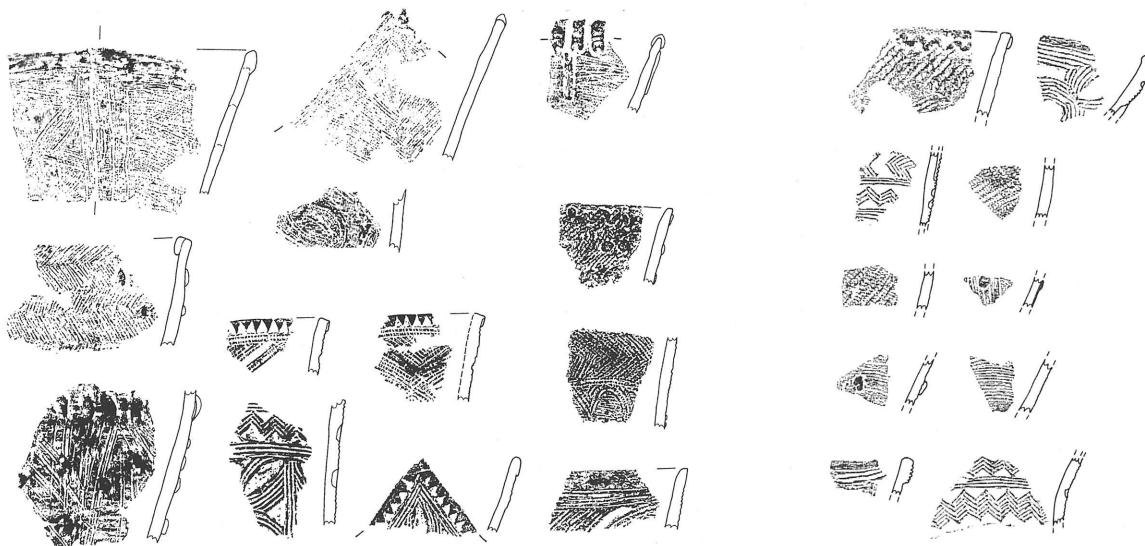
第5章 まとめ

前回の調査である高井桃ノ木遺跡からは、縄文時代前期の遺物包含層、古墳～平安時代集落が検出された。今回の高井桃ノ木Ⅱ遺跡は、「高井」交差点となっている南北に長い高井桃ノ木遺跡の南端を、東と西の狭長な調査範囲で挟み込んだ形状となっている。今回の調査においては次のことが指摘される。

縄文前期の遺物包含層については、1m²あたりの出土点数が、前回が4・5点であったのに対し、今回は1～3点と少なくなることから、中心が前回調査範囲の南端で「高井」交差点を挟んだ東西約160mの範囲である可能性が考えられる。

古墳～平安時代集落について、集落の規模は、高井桃ノ木遺跡の北側には新田入口遺跡があるが住居跡の密度は薄くなるため、集落の中心は高井桃ノ木遺跡側にあると思われる。南側は未調査であるため不明である。また東西の範囲では、高井桃ノ木遺跡を中心にして、高井桃ノ木Ⅱ遺跡の西区中央付近～東区西端において150m前後の広がりをもつ。調査区が狭長であるため、いずれの住居跡も、プラン全容を把握するには至らなかったが、遺構個別の各辺から床面積は、前回調査で得られた各住居跡ごとの平均値である25m²を上回るものはないようである。

また高井桃ノ木遺跡南西隅で検出された奈良・平安時代の48号住居跡は西壁が未検出であったが、隣接する高井桃ノ木Ⅱ遺跡西区東端には落ち込みがあり、同住居跡の西壁であった可能性がある。



第13図 参照図

第6章 自然科学分析

高井桃ノ木Ⅱ遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

1. はじめに

群馬県域とその周辺に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、赤城、榛名、浅間など北関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山碎屑物、いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、年代が不明な土層や遺物包含層が検出された前橋市高井桃ノ木Ⅱ遺跡においても、地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、テフラ検出分析と屈折率測定を行って示標テフラとの同定を行い、土層や遺物包含層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、C 地点基本土層断面、E 地点基本土層断面、B 地点東の 3 地点である。

2. 土層の層序

(1) C 地点基本土層断面

C 地点基本土層断面では、下位より黄色細粒軽石混じり灰色シルト層（層厚10cm 以上、軽石の最大径 3 mm）、灰褐色土（層厚11cm）、黄色細粒軽石混じり暗灰褐色土（層厚15cm、軽石の最大径 2 mm）、黄色細粒軽石を多く含む黒灰褐色土（層厚12cm、軽石の最大径 2 mm）が認められる（図 1）。

その上位には、成層した砂がちの水成堆積物が厚く堆積している。この堆積物は、下位より灰褐色シルト層（層厚 1 cm）、黄灰色シルト層（層厚0.4cm）、灰色砂質シルト層（層厚 2 cm）、暗灰褐色泥層（層厚 2 cm）、黄灰色シルト層（層厚 1 cm）、灰色砂層（層厚 6 cm）、若干色調が暗い灰色砂層（層厚11cm）、褐色砂質シルト層（層厚 5 cm）、灰色砂層（層厚21cm）、亜円礫混じり灰色砂層（層厚46cm、礫の最大径13mm）からなる。その上位には褐色砂質土（層厚17cm）をはさんで、やはり褐灰色砂層（層厚15cm）が認められる。さらに、その上位には、下位より褐色砂質土（層厚37cm）、暗灰褐色土（層厚 9 cm）、暗灰褐色表土（層厚 9 cm）が形成されている。間に褐色砂質土の堆積は認められるものの、ほぼ一連の水成堆積物については、層相や本遺跡の位置などから、従来総社砂層（早田, 1990）と呼ばれている堆積物に対比される。

(2) E 地点基本土層断面

E 地点基本土層断面では、やはり総社砂層に対比される水成堆積物の下位に、下位より黒灰褐色土（層厚 10cm 以上）と砂混じり黒灰褐色土（層厚11cm）が形成されている。水成堆積物は、下位より暗灰色シルト層（層厚 8 cm）と亜円礫混じり灰色砂層（層厚48cm、礫の最大径 8 mm）からなる。その上位にも、とくに砂がちで灰色がかかった褐色砂質土（層厚23cm）、黄色がかかった褐色砂質土（層厚28cm）、砂混じり灰褐色土の連続が認められる。さらに上位には、暗灰褐色土（層厚12cm）、暗灰褐色表土（層厚24cm）が認められる（図 2）。

(3) B 地点東

B 地点東の土層断面では、下位より褐色軽石や亜円礫を含む灰色砂層（層厚15cm以上、軽石の最大径17mm、礫の最大径68mm）、灰色砂質土（層厚17cm）、黄色細粒軽石混じり暗灰色土（層厚19cm、軽石の最大径2mm）、軽石を多く含む黒灰色土（層厚18cm）が認められる（図3）。これらのうち、最上位の土層中に含まれる軽石には、とくに黄色軽石（最大径6mm、試料1）が多く、ほかに円磨された褐色軽石（最大径5mm、試料2）や発泡がさほど良くなく円磨された黄灰色軽石（最大径26mm、試料2'）が含まれている。

ここでも、その上位に総社砂層に対比される水成堆積物が認められる。この水成堆積物は、下位より褐色シルト層（層厚12cm）、灰色砂層（層厚7cm）、若干色調が暗い灰色砂層（層厚4cm）、褐色シルト層（層厚4cm）、若干色調が暗い灰色砂層（層厚3cm）、淘汰の良い灰色砂層（層厚3cm）、灰色砂層（層厚12cm）からなる。その上位には、さらに下位より褐色砂質土（層厚28cm）、亜円礫混じり暗灰褐色土（層厚24cm、礫の最大径18mm）、亜円礫混じり暗灰褐色表土（層厚48cm、礫の最大径41mm）が認められる。

この地点では、発掘調査により水成堆積物の下位の、黄色細粒軽石混じり暗灰色土と軽石を多く含む黒灰色土から縄文時代前期後半の諸磯式土器などが検出されている。

3. テフラ検出分析

(1) 分析試料と分析方法

示標テフラの層位、とくに約6,300年前^{*1}に鬼界カルデラから噴出した鬼界アカホヤ火山灰（K-Ah、町田・新井、1978）の層位を求めるために、基本的に5cmごとに採取された試料のうち、5cmおきを中心とした9点を対象にテフラ検出分析を行った。分析の手順は次の通りである。

- 1) 試料10gを秤量。
- 2) 超音波洗浄により泥分を除去。
- 3) 80°Cで恒温乾燥。
- 4) 実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

(2) 分析結果

テフラ検出分析の結果を表1に示す。C 地点では、試料10に黄白色軽石（最大径1.4mm）が少量含まれている。試料6から試料2にかけては、灰白色軽石（最大径1.7mm）が含まれている。とくに試料4や試料2に多い。また試料4から試料1にかけては、発泡が良くない白色軽石（最大径2.2mm）も少量ずつ含まれている。

火山ガラス（ここでは便宜的に径1mm以下の粒子とする）は、いずれの試料からも検出される。試料10では黄白色の軽石型ガラス、試料8には無色透明の軽石型ガラスが含まれている。試料6から試料2にかけては灰白色的軽石型ガラス、試料6から試料1にかけては白色軽石型ガラスが少量ずつ含まれている。試料2では、ほかに無色透明の軽石型ガラスが認められる。

E 地点では、試料4において灰白色軽石（最大径1mm）、また試料2において白色軽石（最大径2mm）を少量ずつ認めることができた。火山ガラスとしては、試料6に無色透明の軽石型ガラス、試料4から試料2にかけて灰白色的軽石型ガラスが認められる。灰白色的軽石型ガラスは、試料4により多く含まれている。

完新世の広域テフラの中で、K-Ah に比較的特徴的に含まれている褐色や淡褐色のバブル型ガラスを検出することはできなかった。

4. 屈折率測定

(1) 測定試料と測定方法

軽石粒子の特徴を記載し、示標テフラとの同定を行うために、C 地点の試料 4 と試料 2、B 地点東の試料 3、試料 2'、試料 1 の合計 6 点について、温度一定型屈折率測定法（新井, 1972, 1993）により屈折率測定を行った。

(2) 測定結果

屈折率測定の結果を表 1 に示す。C 地点の試料 4 に含まれる重鉱物は、斜方輝石や单斜輝石である。斜方輝石の屈折率 (γ) は、1.706-1.709である。また C 地点の試料 2 に含まれる重鉱物も、斜方輝石や单斜輝石である。斜方輝石の屈折率 (γ) は、1.706-1.708である。B 地点東の黄色軽石（試料 1）についても、含まれる重鉱物は斜方輝石と单斜輝石で、斜方輝石の屈折率 (γ) は、1.706-1.708である。これらのテフラ粒子の間に大きな特徴の違いは認められず、同一テフラに由来すると思われる。

B 地点の試料 3（褐色軽石）には、重鉱物として斜方輝石のほか、ごく少量の单斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率 (γ) は、1.704-1.708である。B 地点の黄灰色軽石（試料 2'）には、重鉱物として斜方輝石のほか、ごく少量の单斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率 (γ) は、1.705-1.709である。さらに B 地点の褐色軽石（試料 2）については、microlite が多く精度はさほど高くないものの、1.554-1.560の屈折率 (n) が得られた。重鉱物としては、斜方輝石や单斜輝石が含まれている。斜方輝石の屈折率 (γ) は、1.704-1.709である。

5. 考察—示標テフラとの同定

総社砂層のすぐ下位の土層中に含まれる黄色軽石については、その特徴から、約5,400年前^{*1}に浅間火山から噴出した浅間六合軽石（As-Kn, 早田, 1990, 早田, 1996）あるいは、それと一連の噴火で噴出したテフラに由来する可能性が高いと考えられる。なおほぼ同じ層準に含まれる発泡の良くない白色軽石については、その岩相から約5,000年前^{*1}に草津白根火山から噴出した草津白根熊倉軽石（KS-Ku, 早田ほか, 1988）の可能性があると思われる。したがって土器の層位は、これらのテフラ降灰後に形成され、水成堆積物に被われた土層中にあると考えられる。

6. まとめ

高井桃ノ木Ⅱ遺跡において地質調査、テフラ検出分析、屈折率測定を行った。その結果、本遺跡において検出された土器の層位は、総社砂層に対比される水成堆積物の下位で、浅間六合軽石（As-Kn, 約5,400年前^{*1}）や草津白根熊倉軽石（KS-Ku, 約5,000年前^{*1}）に由来する可能性のあるテフラ粒子が含まれる土層中にあると推定される。

*1 放射性炭素 (¹⁴C) 年代.

文献

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定—テフロクロノロジーの基礎的研究. 第四紀研究, 11, p.254-269.

- 新井房夫 (1979) 関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層. 考古学ジャーナル, no.157, p.41-52.
- 新井房夫 (1993) 温度一定型屈折率測定法. 日本第四紀学会編「第四紀試料分析法－研究対象別分析法」, p.138-148.
- 町田 洋・新井房夫 (1992) 火山灰アトラス. 東京大学出版会, 276p.
- 町田 洋・新井房夫 (1978) 南九州鬼界カルデラから噴出した広域テフラーアカホヤ火山灰. 第四紀研究, 17, p.143-163.
- 早田 勉 (1990) 群馬の自然と風土. 群馬県史通史編, 1, p.39-129.
- 早田 勉 (1996) 関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴ーとくに御岳第1テフラより上位のテフラについて. 名古屋大学加速器質量分析計業績報告書, 7, p.256-267.
- 早田 勉・能登 健・新井房夫 (1988) 草津白根火山起源, 熊倉軽石層の噴出年代. 東北地理, 40, p.272-275.

表1 テフラ検出分析結果

地点	試料	軽石・スコリア			火山ガラス		
		量	色調	最大径	量	形態	色調
C	1	+	白	1.3	+	pmm	白
	2	++	灰白>白	1.3, 1.2	++	pmm	灰白, 白, 透明
	4	++	灰白>白	1.7, 2.2	+	pmm	灰白, 白
	6	+	灰白	1.6	+	pmm	灰白, 白
	8	-	-	-	+	pmm	透明
	10	+	黄白	1.4	+	pmm	黄白
E	2	+	白	2.0	+	pmm	灰白
	4	+	灰白	1.6	++	pmm	灰白
	6	-	-	-	+	pmm	透明

++++: とくに多い, ++: 多い, +: 中程度, -: 少ない, -: 認められない. 最大径の単位は, mm.

表2 屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス (n)	重鉱物	斜方輝石 (γ)
C	2	-*1	opx>cpx	1.706-1.708
C	4	-	opx>cpx	1.706-1.709
B 東	1	-	opx>cpx	1.706-1.708
B 東	2	1.554-1.560*2	opx>cpx	1.704-1.709
B 東	2'	-	opx, (cpx)	1.705-1.709
B 東	3	-	opx, (cpx)	1.704-1.708

屈折率の測定は、温度一定型測定法（新井, 1972, 1993）による。

opx: 斜方輝石, cpx: 単斜輝石. ()は、量が少ないことを示す。

*1: microliteが非常に多く測定不能. *2: microliteが多く低精度。

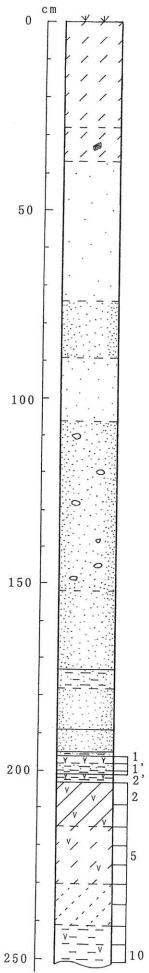


図1 C地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

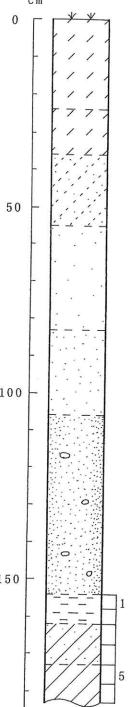


図2 E地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号

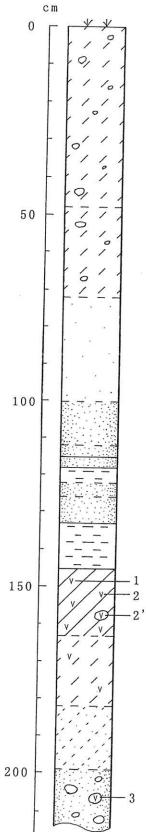


図3 B区東地点の土層柱状図
数字はテフラ分析の試料番号



写真図版 1



基本土層（南から）



西区全景（西から）



西区縄文遺物包含層遺物分布状況（西から）



西区縄文遺物包含層遺物分布状況（東から）



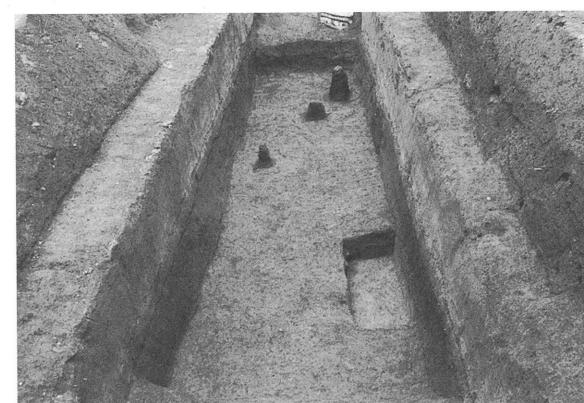
東区全景（東から）



東区B地点全景（西から）



東区A地点全景（東から）



東区縄文遺物包含層遺物分布状況（東から）

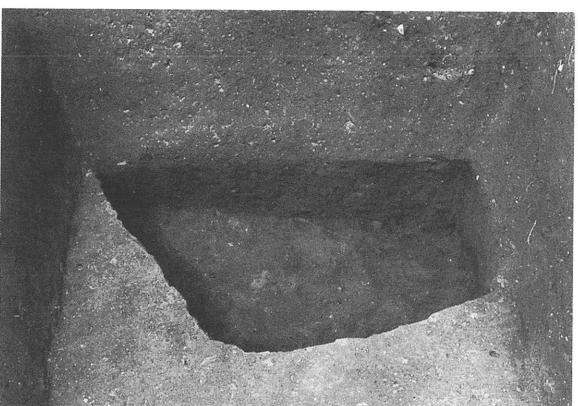
写真図版 2



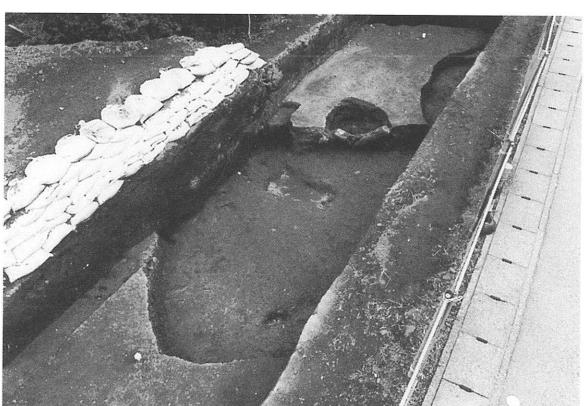
1号住居跡全景（南から）



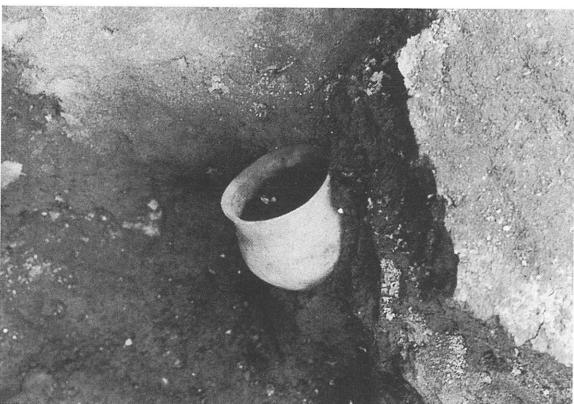
1・6号住居跡遺物分布状況（西から）



2号住居跡全景（東から）



3号住居跡全景（西から）



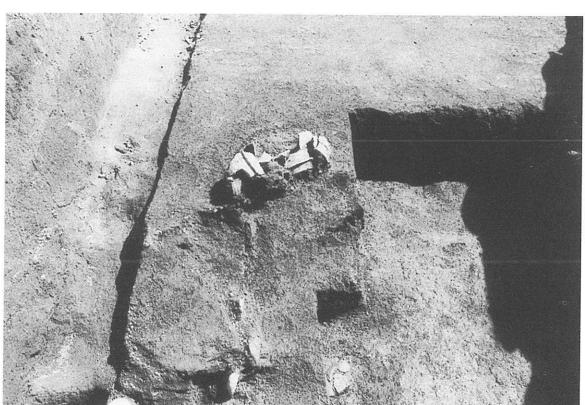
3号住居跡遺物出土状況（西から）



3号住居跡カマド近景（西から）



4号住居跡全景（西から）



4号住居跡カマド近景（西から）

写真図版 3



5号居住跡全景（西から）



5号居住跡カマド近景（西から）



6号居住跡全景（南西から）



7号居住跡全景（西から）



7号居住跡全景遺物出土状況（南から）



8号居住跡全景（南西から）

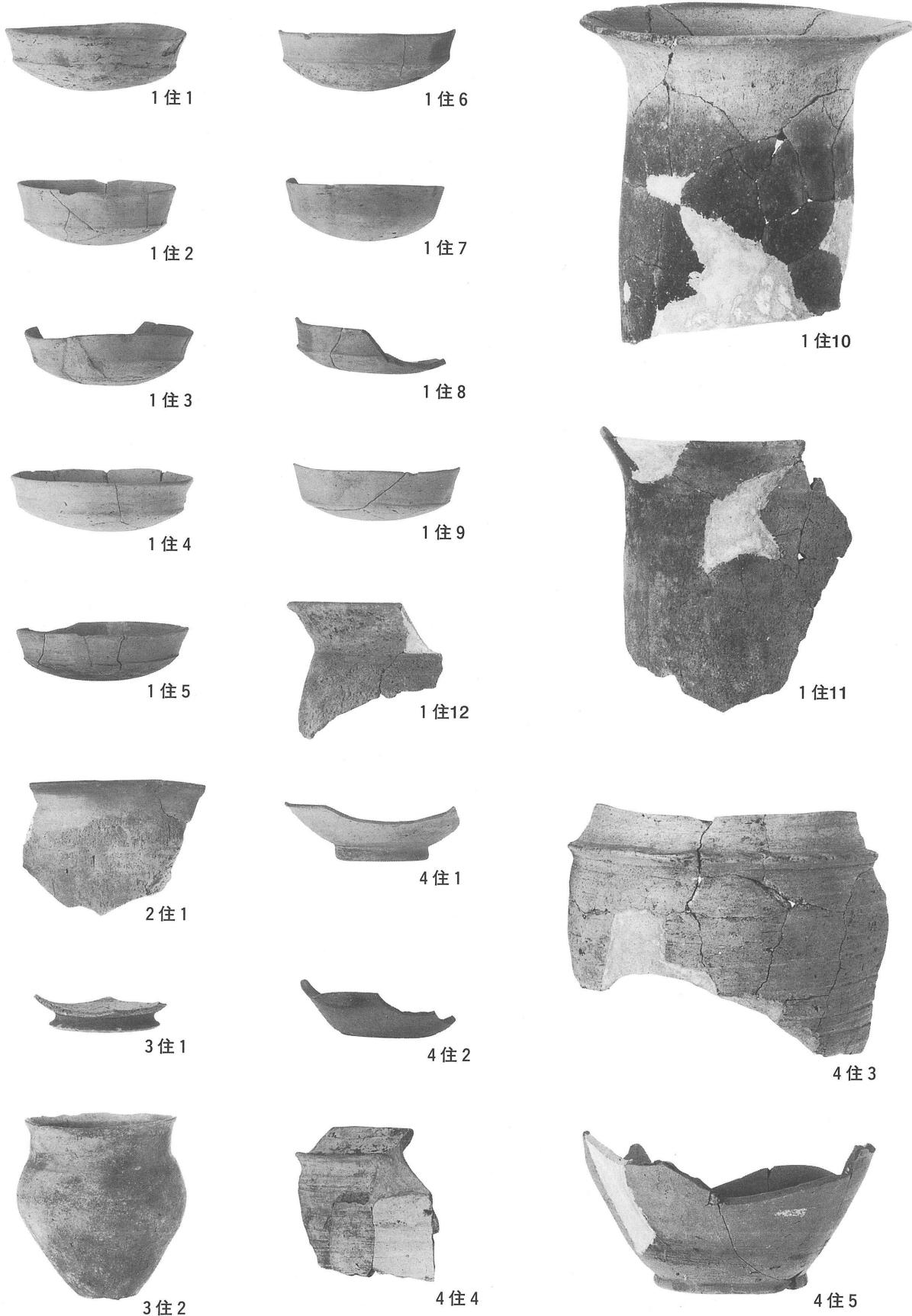


1号土坑（南から）



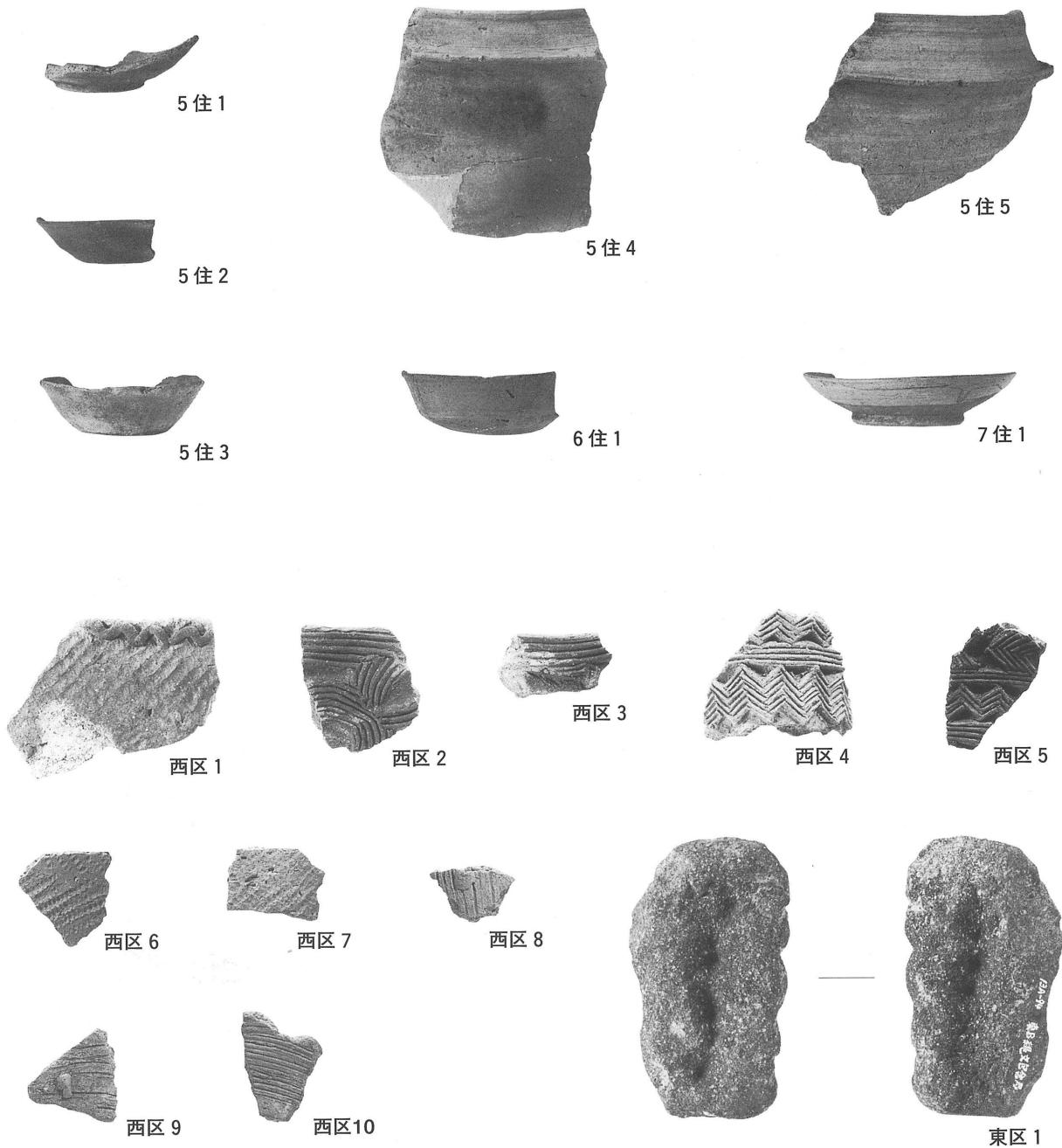
2号土坑（西から）

写真図版 4



1～4号住居跡出土遺物

写真図版 5



5～7号住居跡、縄文遺物包含層出土遺物

抄 錄

フリガナ	タカイモモノキⅡイセキ						
書名	高井桃ノ木Ⅱ遺跡						
編著者名	大越直樹・矢口裕之						
編集機関	山武考古学研究所／〒286-0045 千葉県成田市並木町221 TEL 0476-24-0536						
発行機関	元景寺南線遺跡調査会（群馬県教育委員会文化スポーツ部文化財保護課内）TEL 027-226-4694						
発行年月日	西暦2003年3月20日						

フリガナ 所収遺跡	フリガナ 遺跡所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡					
タカイモモノ キⅡイセキ	グンマケンマエバシ シソウジャマチタカ イ232-2	10201	13A-94	36° 24'	139° 01' 42"	20010809 ～ 20011031	745m ²	元景寺南線 建設に伴う 事前調査
高井桃ノ木Ⅱ 遺跡	群馬県前橋市総社町 高井232-2他							

遺跡名	種別	時 期	主な遺構	主な遺物	特記事項
高井桃ノ 木Ⅱ遺跡	包含層	縄文時代	—	土器：前期諸磧a式、諸磧b式、十三菩提式 石器：凹石、剥片	浅間六合軽石を含む縄文時代前期遺物包含層の範囲確認
	集 落	古墳時代	竪穴住居跡3軒	土師器甌・甕・壺	
		奈良・平安 時代以降	竪穴住居跡5軒	土師器：甌・甕・台付甕 須恵器：羽釜・長頸壺・壺・椀 灰釉陶器：皿	古墳～平安時代集落跡の範囲確認
		近世	土坑1基	陶磁器破片	
		時期不明	土坑1基	—	

遺物の取り扱いについて

項目	内 容	
水洗い	・全点実施	
注記	• 略称／遺跡…13A-94 住居跡…H 土坑…D • 全点実施	
実測	• 遺物実測は報告書掲載分についてのみ実施した。	
台帳	• 遺物台帳・図面台帳・写真台帳を作成し、後日、資料検討が可能なように構成した。	
保管方法	出土遺物	• 出土遺物は、報告書掲載と未掲載に分け、コンテナに収納した。
	図面	• 遺構実測図と遺物実測図に分けアルタートケースに収納した。
	写 真	• 遺構写真は、モノクロ35mm、カラーリバーサル35mm、モノクロ6×7cmの3種類がある。 • 遺物写真は、報告書掲載分についてのみモノクロ6×7cmフィルムを使用して撮影を行なった。

高井桃ノ木Ⅱ遺跡

印刷 平成15年3月10日
発行 平成15年3月20日

編集 山武考古学研究所
発行 元景寺南線遺跡調査会
印刷 (株)文化総合企画
TEL 0476-93-0593

